

「基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成」に関する事業

(1-1) 点検・評価表

2-1 地域と共にある学校づくり

- 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等を
テーマにした学習を推進します・・・・・・・・・・ 41
- 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
- 2-1-4 見守り隊など、地域での子供の安全を守る取組を推進します・・・・ 43
- 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります・・・・・・ 44

2-2 青少年の健全育成

- 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力による調査・
研究に努めます・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- 2-2-3 青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促します・・・・・・ 47
- 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します・・・・ 48

2-3 学び合う、支え合う地域社会づくり

- 2-3-1 家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます・・・・ 49
- 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます・・・・ 50
- 2-3-3 放課後子ども教室など、地域での安全で安心な子どもの
居場所づくりの取組を推進します・・・・・・・・・・ 51
- 2-3-4 「“ののいちっ子を育てる” 市民会議」の活動を支援します・・・・ 52
- 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します・・・・ 53

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・特色ある学校づくり支援事業では、各学校が学校経営ビジョンの実現や児童生徒・地域の実態を踏まえ、創意工夫した教育活動を展開するための補助金を交付した。
 ・市小中学校教育研究会（市教研）に対する補助金を交付し、県教育委員会指導主事の派遣手続きを行うなど、市内の小中学校教職員が自主的に学びあう場を提供した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・各学校が特色ある学校づくりに向けた教育課程や取組を実施することで、自主的・自律的な学校運営を推進できた。 ・市小中学校教育研究会において、学習指導や生徒指導の課題やスキルを共有し、9年間を見通した小中連携の指導体制作りが促進された。	・各学校の創造的な学校づくりを支援するための予算確保 ・各学校・部会の研究成果（市の教育基本方針との関連）について、市内小中学校への普及啓発

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・各学校の特色ある学校づくりを継続して支援する。
 ・特色ある学校づくりの活動内容や成果等について、教頭会議等において交流する場を儲け、相互理解を深め、よい取組みにについて学び合う。
 ・小中学校教育研究会の活動に対して、県・市の指導主事による指導・助言の機会を適切に設けられるよう、計画的に調整を図る。また、研究紀要を活用し、研究のまとめを普及する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		各学校の特色ある学校づくりや質の高い研修の機会への支援を維持するため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・「学校の応援団」として、地域のボランティアがゲストティーチャーを務めた。
- ・中学校2年生の「わく・ワーク体験」（職場体験）を実施した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・各教科等において、地域の方にゲストティーチャーをお願いすることで、質の高い学びにつながった。 ・「わく・ワーク体験」を実施し、地域での職場体験を通して、キャリア教育において学びを深めた。	・コミュニティ・スクールの更なる活用推進 ・地域の魅力を発掘し、授業の質を高めるための地域人材の発掘・確保 ・「わく・ワーク体験」の協力事業所等の新規開拓

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・コミュニティ・スクール等で発掘した地域人材を活用し、質の高い学習活動を行う。
- ・「わく・ワーク体験」を継続して実施し、勤労を通して、未来の地域の担い手となる意識を醸成する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		継続して、地域の魅力を生かした学習活動を実施し、「地域に開かれた学校」を目指すため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・学校公開の実施
- ・学校評価の実施
- ・地域学校協働推進員（学校運営委員会）による広報活動

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・学校公開により、学校での子どもたちの様子や学校の取組を知ってもらう機会として機能している。また、学校は道徳の授業を計画的に行うなど、保護者、地域との連携を意識した内容を実施している。 ・学校運営協議会の実施により、学校の困り感を地域が支え、学校教育の環境づくりの向上につなげることができている。	・学校が抱えている問題点を多くの保護者、地域と共有し、解決に向けて協力できる体制づくり

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R3）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-1-3	各学校の公開回数	回/年	3	3	3	3	3 （維持）

（3）今後の展望

- ・学校評価を基にして、子どもたちにとって学校が居心地の良い場となるような指導改善を引き続き行っていく。
- また、その計画や結果を保護者や地域と共有し、改善に向けた取組を協働する。
- ・学校の取組を学校ホームページやICTツールを活用して積極的に発言する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		学校運営協議会が定着してきたことにより、質の高い授業や環境づくりが行われているため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）教育総務課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-4 見守り隊など、地域での子どもの安全を守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・各小学校では児童が見守り隊に対して、感謝の気持ちを伝える取組（手紙を書いて渡す等）を実施した。
 ・校内に見守り隊の顔写真を掲示したり、学校行事に招待したりするなど、見守り隊が子どもの身近な存在となるような取組を実施した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・見守り隊の存在により、子どもの安全意識の向上につながっている。 ・見守り隊の方からの通学路の危険個所に関する情報や児童生徒の気になる通学の様子が報告されることがあり、学校での指導の際の重要な参考情報となっている。	・見守り隊の減少と高齢化 ・登下校に関する家庭における交通安全指導の意識の低下 ・日常的に感謝の気持ちを言葉や行動で表すことができる子どもの育成

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・見守り隊が必要としている物、情報などの提供と、活動に関する研修等の充実を図る。
 ・見守り隊と子どもの交流をきっかけとして、子どもの安全を地域全体で確保できることを目標とした取組を進める。
 ・見守り隊だけでなく、学校や家庭がそれぞれの場で子どもの安全を意識した教育を行うとともに、3者が相互に連携した安全教育を推進する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		見守り隊の高齢化に対しては、引き続き対策を考える必要があるが、見守り隊による安全の確保は満足できるため、今後も継続した取組が必要とされるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）教育総務課・生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・小中学校に学校運営協議会を設置し、年4回学校運営協議会を開催
- ・生涯学習課内に地域学校協働本部を設置し、各校に地域学校協働活動推進員を1名配置
- ・地域学校協働活動ボランティアの募集及び登録（個人及び企業 計164件）
- ・地域と学校の連携・協働体制構築事業費補助金による支援
- ・「コミュニティ・スクールボランティア感謝のつどい」を開催（令和7年2月8日 70名参加）
- ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」登録制度の実施（14企業登録）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・コミュニティ・スクールも3年目を迎え、各学校や地域においてそれぞれ制度理解度が深まったことや情報交換が図られたことにより、新規の取組みも増え、効果的な連携・協働を実施することができた。 ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」登録制度において、新たに7企業に登録をしていただくことができ、家庭教育を応援し、学校・地域社会に貢献する活動に取り組んでいただくことができた。	・学校と地域で更なる目標や課題を共有し、学校のニーズに合ったボランティアの新規人材確保を行うことが必要 ・継続的な活動を充実させ、幅広い地域住民や企業等の参画を得るための工夫が必要

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-1-5	地域の人々と連携した授業回数	回/年	56	61	66	134	70
2-1-5	地域協力者の登録数（個人・団体）	人・団体/年	—	118	142	164	140

（3）今後の展望

- ・学校のニーズが高いボランティア項目の登録者を増やす。
- ・「野々市市学校・家庭・地域応援企業」の登録企業数を増やし、一般企業に対しても、地域住民として、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちをはぐくむ「地域と共にある学校づくり」に参加いただけるように努める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		子どもたちの健全育成には、学校と地域の連携・協働が必要不可欠であることから、新規開拓も含め多くの地域住民や企業等の協力により、コミュニティ・スクールの充実を図る必要があるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力により調査・研究に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・青少年問題協議会の開催（令和6年10月4日）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年に関わる関係者が、現代の青少年が直面する問題や青少年を取り巻く環境について情報共有や意見交換を行うことで、理解を深めることができた。	・昨今の急激に変化する社会において、青少年を取り巻く環境も急速に変わっていくことから、新たな課題に対して積極的に意見交換、対応策の検討を行っていくことが必要

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・青少年問題協議会を通して、関係機関との連携を深め、現代社会における青少年を取り巻く環境に関して意見交換を行い、課題解決のための方向性を探っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		青少年に関わる関係機関が一同に会して情報共有等を行う貴重な機会であるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・街頭巡視活動の実施（年間延べ276回、延べ639名が市内商業店や公共施設等を巡視）
 ・インターネット巡視活動の実施（年間238回、T i k T o kやInstagram等のSNSやインターネット掲示板等の投稿を確認）
 ・市内児童・生徒・保護者からの初動的な相談を受け付ける「いじめ・トラブル相談室」の設置（R6年度相談受付件数：8件、相談受付方法：電話、メール、Webフォーム、来所）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内商業店舗や公共施設等の街頭巡視を実施することで、子どもたちが安心・安全に過ごせる地域環境を維持した。 ・SNS等のインターネット巡視を行い、誹謗中傷の投稿等の問題を発見した場合は速やかに関係機関と情報共有し、問題解決を図ることで非行や被害を防止した。	・今後も市内の新たな商業店舗の出店や既存店舗の閉店などの情報収集に努め、地域の商業環境の変化が市内児童生徒に及ぼす影響を調査し対応していく必要がある。 ・SNSなど、新たなサービスの使用状況や危険性を確認していく必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-2-2	街頭巡視活動の参加率	%	88	71	83	84	90
2-2-2	インターネット巡視活動	回/年	181	244	226	238	220

（3）今後の展望

・今後も継続して市内の商業環境を把握し、健全な商業空間を構築していく。
 ・SNSなどインターネット上の新たなサービス等の使用状況、危険性を把握し関係機関と共有できる体制を維持していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		非行・被害防止のため今後も市内商業環境の把握やインターネット上のサービスの把握が必要なため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-3 青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・成人式 日時：令和7年1月12日（日）午後2時開催 内容：アトラクション・式典（参加者数：406人 対象者数：838人）
・立志式 日時：野々市中学校 令和6年11月12日（火）午後2時開催 布水中学校 令和6年11月15日（金）午後2時開催 内容：式典・記念講演（柴野 大造 氏 株式会社マルガー代表取締役 世界ジェラート大使 参加者数537人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
青少年の新たな門出に際し、地域社会からの温かい祝福を受ける中で、大人として社会に参画していくための心構えについて考える機会を提供できた。	・成人式については、過度な混雑を防止する効率的な開催方法について検討していく必要がある。 ・立志式については、現代の思春期の青少年のニーズに合わせた講演会を実施する必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

次代を担う青少年が意欲を高め、将来自立していくうえで役に立つような講演会の開催等を検討していく。
--

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		成人式、立志式には毎年多くの市民が出席しており、大人としての自覚自立を促す良い機会となっているため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・公民館事業として子どもたちが自然にふれるイベントを実施
 ののいち自然教室 第1回：令和6年7月26日（金） 白山市蛇谷自然観察園、中宮展示館など
 第2回：令和7年2月11日（火・祝） 白山ろく少年自然の家
- ・ボランティア探検隊「飛鳥」の活動支援
 活動内容：郷公民館花いっぱい運動補助、北国街道野々市の市「弁慶の力石コンテスト」運営補助、椿まつり飛鳥縁日運営など

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・自然体験教室やボランティア活動によって、日常生活では体験できないような活動の機会を提供したことで、子どもたちの社会性や協調性の向上に寄与した。	・自然体験教室が子どもたちにとってより良い体験になるように内容の充実を図ることが必要である。 ・ボランティアの活動の知名度を高め、活動の充実を図ることが必要である。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-2-4	青少年ボランティア登録者数	人	25	31	31	33	40

（3）今後の展望

- ・自然体験教室やボランティア活動の取組みの趣旨を周知し、興味を持って参加してもらえるよう企画実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		自然体験教室やボランティア活動などでは、普段の学校生活や家庭ではできない体験ができ、それらの活動は豊かな人間性の涵養に寄与することから、今後も継続して実施する必要があるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課・子育て支援課・健康推進課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-1 家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・家庭教育推進協議会の開催（年2回：令和6年8月8日、令和7年3月24日）
- ・家庭教育サポーターの活動
 - 各園の「なかよしの日」に保護者との相談活動を実施（市内12園 計58回実施）
 - 子育て中の保護者の気軽な相談相手として来館者への声かけなどをする支援活動の実施（開催日：毎週火曜日 場所：カレード）
 - 子育て中の保護者と子どもが一緒に楽しめるイベント「なかよし子育て大集合！」の実施（開催日：令和7年3月22日 参加者数：190人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・家庭教育推進協議会では、「ののいち元気家族三か条」チラシを配布し、家庭教育の重要性を啓発した結果、広く市民に認知された。 ・家庭教育サポーターの活動をカレードでも実施することで、より気軽に相談できるようになった。	・家庭教育サポーターの人員確保が必要。 ・家庭教育の重要性をさらに周知するため、コミュニティ・スクールの事業とも連携し、地域住民や企業との協働が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-3-1	家庭教育サポーターの人数	人	21	28	23	25	30

（3）今後の展望

- ・効果的な家庭教育の事業を推進するため、家庭教育の関係者を集めた協議会を定期的に開催し、課題解決を図っていく。
- ・家庭教育サポーターの体験談や活動内容を積極的に発信することで、サポーターの魅力を伝え、人員の確保に努める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		人格形成の基礎である家庭教育の充実をはかることは、青少年の健全育成へつながるため、各家庭の自主性を尊重しつつ、継続して取り組む必要があるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課・教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・就学時健診子育て講座（小学校5校 計5講座 参加者数：476人）
- ・思春期子育て講座（中学校2校 計2講座 参加者数：533人）
- ・家庭教育講座を市PTA連合会に委託（各単位PTAにて開催 計7講座 参加者数：293人）
- ・幼児家庭教育講座を各保育園で家庭教育に関連するテーマで年1回開催（8園実施 参加者数：175人）
- ・「ののいち家族ふれあいの日 NOネット・NOゲーム・NOテレビ」の推進

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内保育園や市内小中学校で講座を実施することで、子どもの発達段階に応じた学習機会を提供することができた。	・各種講座をインターネットを活用して行うなど、講座の開催方法の拡充を図ることで、より多くの学習機会を提供することが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-3-2	ノーネット・ノーゲーム・ノーテレビデーの認知率	%	76	96	98	96	80
2-3-2	公民館等と連携した講座の開催数	回/年	—	0	4	4	10

（3）今後の展望

- ・家庭の教育力を高めるには、保護者の子育てに対する意識の向上が必要であるため、各種講座を開催し、保護者へ学習機会の提供を継続して行う。
- ・ニーズの把握にも努め、需要に即した講座を実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		家庭の教育力を高めるためには、保護者への学習機会の提供を継続して行うことが必要であるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課・教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
- 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
- 具体的施策 2-3-3 放課後子ども教室など、地域での安全で安心な子どもの居場所づくりの取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・放課後子ども教室を市内各小学校及び市役所で実施（計6教室 参加者数：104人）
- ・土曜日等の教育活動の実施（計4日 参加者数：延べ72人）
- ・コミュニティ・スクールボランティア登録制度を活用した放課後子ども教室スタッフ人材や講師の確保

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・放課後子ども教室及び土曜日等の教育活動において、子ども達の安心安全な居場所を設け、さまざまな体験活動を行うことで、豊かな人間性の形成に寄与した。 ・コミュニティ・スクールボランティア登録制度を活用し、放課後子ども教室における運営スタッフを確保することができた。	・運営スタッフの人数などに応じて定員を決定するが、定員を超えて申込があった場合は抽選となってしまうことから、申込者数に応じた運営スタッフの確保が必要。 ・放課後子ども教室の講師選定の際にコミュニティ・スクールボランティアの方にも協力いただけるような体制の構築が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-3-3	土曜日等の教育活動の参加人数	人/年	174（R1）	85	93	72	200

（3）今後の展望

- ・継続して子どもたちに多種多様な体験活動を提供するため、地域との関わりを持ちながら地域ボランティアの確保に努める。
- ・事業内容を精査し、新しいものを取り入れながら、さまざまな機関との連携事業についても推進する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		・子どもたちの安全・安心な居場所を設け、豊かな人間性をはぐくむためには、地域との連携をさらに充実させる必要があるため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-4 「”ののいちっ子を育てる”市民会議」の活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』の実施（全5期）
- ・子どもと大人のまちぐるみ美化清掃の実施（開催日：令和6年7月7日 参加者：54町内会及び野々市明倫高校8,044人）
- ・青少年育成研修会の開催 「スマホ社会の賢い子育て」について（開催日：令和6年7月20日 参加者数：116人）
- ・ネットモラル標語ポスターの掲示 「ネットでも 相手を想う 発言を」等8種類（町内会掲示板109箇所 公共施設61施設 小中学校7校 合計620枚）
- ・地域学校協働本部としてボランティアの登録（個人・団体・企業 164件）及び紹介（19件）の実施

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年育成研修会において、保護者や青少年健全育成関係者が、デジタル・シティズンシップ教育について理解を深めることができた。 ・地域学校協働本部の運営を担い、コミュニティ・スクール事業を効果的に推進することができた。	・子どもたちを取り巻く社会環境が急速に変化していることから、現メディア対策事業を定期的に見直し、時代の変化に対応した青少年健全育成活動を推進することが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）
2-3-4	美化清掃の参加者数	人/年	9,533(R1)	8,374	4,829	8,044	11,000

（3）今後の展望

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着していることから、今後も”ののいちっ子を育てる”市民会議の活動を引き続き支援する。
- ・メディア機器の進化によって子どもたちを取り巻く社会環境の変化が著しいことから、引き続き保護者や関係機関の方々に向けた最新メディアに関する学習会を開催する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着し、青少年健全育成に寄与しているため。

令和7年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和6年度実施事業分）

（担当課）生涯学習課

基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・各団体の活動の支援
 子ども会育成連絡協議会 ラジオ体操、SDGsカードゲームポスターの展示など
 PTA連合会 巡視活動、研修会など
 スカウト育成会 募金活動、災害ボランティア派遣など

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年の健全育成に取り組む各種社会教育団体を支援することで、子どもたちが地域の人たちとのつながりを感じることができた。 ・各団体の活動を通して、地域で子どもたちを育てるという機運を醸成した。	・昨今の社会情勢や教育環境の変化に伴い、各団体においても新たな取り組みを検討していくことが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4実績値	R5実績値	R6実績値	目標値（R13）

（3）今後の展望

・子どもたちが地域の人々との関わりの中で健やかに成長していくための取り組みが継続されるよう、引き続き各団体を支援する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		地域の人々との関わりが子どもたちの健やかな成長に寄与すると考えられることから、引き続き支援を行う必要があるため。

（２－２）学識経験者からの意見

・地域の人々と連携した授業回数と地域協力者の登録数が大幅に増加していることから、コミュニティ・スクール制度への理解が深まり、定着しつつあると考えられるとともに、子供たちの健全育成に協力していただける方が増えたことはとても喜ばしいことだと思います。今後も継続的な活動を充実させるとともに、学校と地域で目標や課題の共有を深め、「地域と共にある学校づくり」を推進していただきたい。

・青少年の健全育成のため、青少年問題協議会を通じて関係機関の連携体制が着実に構築されており、いじめや非行といった課題に対して継続的な情報共有と意見交換が行われていることは高く評価できます。特に、インターネットやSNSに起因する新たな問題に対して、関係機関が柔軟かつ迅速に対応策を協議・展開する姿勢は時代の要請に即したものであり、今後のさらなる連携に期待します。また、実際に地域の青少年の問題行動の抑止と有害な環境から青少年を守るために、街頭巡視活動やインターネット巡視活動は必要なことであり今後も対応をお願いするとともに、「いじめ・トラブル相談室」でも積極的な対応をお願いしたい。

・家庭教育が社会全体として徐々に希薄化・衰退しつつある中で、家庭の教育力をどう支えていくかは、地域全体の重要な課題となっています。こうした状況に対し、小学校での就学時健診に合わせた子育て講座や、中学校での思春期子育て講座など、保護者に対して子供の発達段階に応じた丁寧な支援が継続して行われていることは評価できます。家庭環境の多様化により、子育てに不安や孤立を感じる保護者が増加する中、こうした講座は保護者にとって安心できる学びの場・語り合いの場として大きな意義を持っています。今後は、より多くの保護者が参加しやすいよう開催方法に工夫を凝らすとともに、話を聞くだけの形式にとどまらず、保護者同士が対話を通じて悩みを共有し、支え合えるような関係性を築ける構成が期待されます。保護者の声やニーズを丁寧にくみ取りながら、参加者同士のつながりを生む場づくりを進めることが、家庭教育の再活性化にもつながるものと考えられます。継続的な取組みを通じて、家庭の教育力が再び高まり、子供たちの健やかな成長を支える環境が地域全体で築かれていくことを期待します。

・ゲストティーチャーの活用をはじめとした、地域の歴史・文化・産業をテーマとする学習活動は、小学校ではコミュニティ・スクール推進委員との連携により、各教科での地域人材の活用が進められ、中学校においても職場体験活動が実施されるなど、キャリア教育の実践の場として機能しています。地域の魅力や教育力と触れ合う機会を通じて、子どもたちの豊かな心の育成にも繋がっている点は大いに評価できます。

・地域全体での家庭教育への支援の必要性は高く、放課後子ども教室の果たす役割は大きいと考えます。子供たちに安全・安心な居場所を設け、様々な活動を通しての地域住民等との交流等により豊かな人間性が育まれていると考えられることから、地域ボランティアの確保に努めていただくと共に更なる事業内容の充実に努めていただきたい。

・青少年の豊かな心を育む取り組みとして、ののいち自然教室やボランティア探検隊「飛鳥」など、地域とのふれあいや自然との関わりを大切にした体験活動が実施されており、子どもたちにとって貴重な学びの場となっています。人とのつながりや自然体験が希薄になりがちな現代において、こうした活動の意義は大きく、継続的な取り組みは高く評価します。今後は、ボランティア団体の活動についての周知をさらに進め、活動の魅力がより多くの子どもたちに伝わるよう期待します。

（２－３）今後の方針

・継続して、各学校の特色ある学校づくりを支援するとともに、適切で質の高い自主研修の機会を提供していきます。

・青少年問題協議会を通じて関係機関との連絡体制を構築するとともに最新の様々な情報交換を行い、連携を深めていきます。また継続して街頭巡視やインターネット巡視活動の実施や、いじめトラブル相談室における初動対応を適切に行うなど、青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を行います。

・コミュニティ・スクールに対する活動の充実を図り、また地域の人々の制度理解や協力を得て、子どもたちの安心安全な活動拠点において、学習活動やスポーツ・歴史・文化芸術活動、キャリア教育実践の場としての職場体験活動等の取組を継続して実施していきます。

・自然体験教室の実施やボランティア団体の活動を支援することにより、社会性や協調性を持った心豊かな子どもたちの育成を図ります。さらに、ボランティア団体の活動についての周知を進め、活動の魅力をより多くの子どもたちに伝えることで、参加の機会を広げ、より多くの子どもたちがその価値を実感できるよう努めます。

・保護者に対して家庭教育の学習機会を継続的に提供し、保護者同士の交流を促進することで、地域社会としての教育力を高めていきます。また講座の開催方法も工夫し、

保護者ニーズを反映した支援を行いながら、地域全体で家庭教育を支える環境を築いていきます。